

# 桜花学園 中長期計画

(2023 年度～2027 年度)

## はじめに

学園を取り巻く環境は急速に変化しており、とくに少子化の影響は極めて大きなものがある。大学・短期大学への進学者の多くを占める 18 歳人口は、1992 年度の 205 万人をピークに減少を続け、2009 年度頃から 2018 年度頃まではほぼ横ばいの 120 万人前後で推移したものの、その後再び減少傾向になり、2040 年度には 88 万人との予測となっている。また、18 歳人口の推移を 3 年前に遡らせれば、高等学校の入学該当年齢である 15 歳人口の推移となる。この厳しい環境の中、桜花学園は 2023 年には創立 120 周年を迎えるが、その後も社会の期待に応えて、責務を果たし、更なる発展を続けていくためには、中長期的な展望の下に計画的に学園の運営を遂行していく必要がある。

このような考えの下に、学園の取り組みを厳しく点検・評価しながら、新たな課題に適切に対応し、学園を一層発展させることを期して、中長期計画（改訂版）を策定する。

## 1 桜花学園ビジョン

### 建学の精神をふまえた教育の実現

建学の精神をふまえた、社会に貢献できる人材を育成する教育を、各設置校において適切に行う。

### 教育の質保証

桜花学園に在学する学生・生徒が、本学の教育の質に満足し、成長を自ら実感できる教育内容の整備を目指す。

### ガバナンス・経営基盤の強化

学生・生徒の定員充足ならびに財政基盤の健全化を達成し、学園の存続と発展する体制の確立を目指す。

### ステークホルダーとのコミュニケーションの充実

教育と財務の観点からの情報開示を行い、ステークホルダーからの評価を得て、教育活動の充実を図り、教育成果の社会への還元に努め、地域社会等への貢献を積極的に行う。

## 2 各設置校における計画

### 桜花学園大学

#### 大学院

##### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	5	5	5	5	5
入学定員 (人)	10	10	10	10	10

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

2022年度はI・II期合わせて人間科学専攻定員5名を確保できたが、研究者志望の入学者が多くなっており、博士課程がない状況では、入学定員を毎年5名以上確保することは難しいので、毎年両専攻合わせて5名を維持していくことを目標としたい。

##### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

本学独自のチーム指導により、手厚い研究指導という評価が内外に浸透しつつあるので、これを維持していきたい。大学院教員は学部との兼任であることから学部教員の1.5倍前後(平日18:00以降や土曜日の授業、大学院入試、大学院会議、修士論文審査、チーム指導等を含め)の労働量となり限界にきていることで、これ以上の展開が難しいのが現状である。

##### 3. 満足度の向上(就職支援、進路支援、学生生活等)

アンケート結果から見た全体的満足度は高い。2022年度から大学院生学会活動支援を予算化しており、制度を利用する院生からの評価も高い。ニーズに応えた支援継続・拡充に引き続き努めたい。

##### 4. 社会からの要請への対応(地域連携、グローバル化等)

2040年度の大学院と高等教育を見据えた答申によると、高度専門職業人が学ぶ環境という点から、一番の要請はカリキュラムと研究指導体制であり、カリキュラムという点で2023年度に地域文化専攻のカリキュラム改革を完了させたい。

## 保 育 学 部

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 保育学科 (人)	130	130	130	130	130
入学定員 (人)	130	130	130	130	130
入学者 目標値 国際教養こども学科 (人)	45	45	45	45	45
入学定員 (人)	45	45	45	45	45

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数。編入学定員は含まない。

[対応策]

- ・ 保育学科は、東海三県、国際教養こども学科は全国から入学希望者が集まるとい傾向がある。広報内容や方法について継続的に検討を行う。
- ・ 指定校入試における推薦基準について見直しをはかり、前半入試において質の高い生徒の獲得を目指す。

### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

- ・ 協同的に取組む活動や新たな人間関係の構築など、コロナの感染拡大で失われた人との関わり場を増やしていく。
- ・ IR活動をホームページや学内掲示などを通して社会へ公示するとともに、教育への反映を目指す。
- ・ 保育学科においては、スペシャリスト未認定者をできる限り少なくするために、スペシャリスト科目の学びの価値付けを行う。国際教養こども学科においては、保育者の魅力について学生へ伝達する。
- ・ 国際教養こども学科においては、海外留学指導における問題点について、その要因を解明し学生が安心して臨める留学について改善を行う。
- ・ 専攻科保育専攻からの海外留学タイプへの進学を希望する学生の編入を想定した国際教養こども学科の、学修支援・カリキュラムについて検討を行う。

### 3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）

- ・ 教育・保育職支援センターなどと連携し、「学びのカルテ」の記載内容について点検を行う。
- ・ 保育学部が育成する資質能力や「目指す保育者像・教師像」との関係について、就職先である園を中心に聞き取りを継続する。聞き取りの結果は、学部研修会で情報共有し、ディプロマ・ポリシーとの関係について検証を行う。
- ・ 実習と採用、就職が一貫した指導となるように、教務、実習、学生に関わる事務部局、委員会及び教育・保育職支援センターとの連携をはかる。
- ・ 教育・保育職関連の授業において、卒業生にゲストスピーカーとして話を聞く機会について検討を行う。

#### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- ・ 男女共学化を踏まえた教育・保育現場への男性保育者・教師の輩出を図るために、学部学生運営委員会等の活動の活性化を図る。
- ・ 学外でのボランティア活動の意義について学生に周知する。
- ・ 海外留学指導の実態を年次ごとに振り返り、危機管理や学生指導の在り方について改善を行う。

## 学 芸 学 部

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	(※1) 30	(※2) 50	(※2) 50	(※2) 50	(※2) 50
入学定員 (人)	50	50	50	50	50

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数。編入学定員は含まない。

※1 学芸学部として最後の募集。

※2 国際学部として募集

[対応策]

- ・ 学科の魅力を SNS を通じて幅広く高校生に発信する。
- ・ 長期休暇を利用して、韓国語特別プログラムなどを実施し、学科の魅力を OC 以外の機械も使い高校生に発信する。
- ・ 海外英語実習を再開し、留学の魅力や重要性を高校生に向けて再発信する。
- ・ 英語圏以外への個人留学プログラム（主として韓国）を充実させ、英語に限らない語学学習の魅力があることを高校生に発信する。
- ・ 提携文書に基づく、協定校からの留学生受け入れを積極的に行い、キャンパス内にて、学生同士の国際交流ができる環境作りを推進する。
- ・ 桜花学園高等学校との連携強化を継続する。同校で実施される「学長杯」英語コンテストに全面的に協力する。
- ・ ストーリーテリングコンテストを継続・実施する。

### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

- ・ 研究紀要の年2回発行を継続する。
- ・ 学部全体の研究テーマ（音育）を設定し、各教員がそれに関連研究したテーマ設定を行い、授業分析や研究を推進させる。
- ・ 大学全体の FD 委員会の動きを見ながら、いい実践であると公式に認められる OGP (Ohka Good Practice) 賞を学部学科内教員が獲得できるよう授業相互鑑賞を積極的に行う。

### 3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）

- ・ 2年次より専門の職員、教員による就職指導を開始する。
- ・ 学内 Cacoro の紹介を早めに行い、学生が就職に向けて早く動くことが

できるような働きかけをゼミを中心として行う。

- ・国内外の大学院進学希望者に対して、専門教員による継続的な指導を実施する。
- ・学部内学生組織（Student Government）による企画を定期的に行い、一般学生の企画参加率を上げる。
- ・フォーラムを活用して、学科への学生の要望が直接学科教員に伝わる場を継続して設ける。

#### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- ・海外長期留学、留学生の受け入れに際し、JASSO 支援金を獲得できるよう尽力する。
- ・地域連携センターからの要望を丁寧に聞き取り、観光ゼミを中心として地域（主として有松）の行事に参加する。
- ・観光ゼミを中心として、刈谷市からの観光関連依頼に対応する。

# 名古屋短期大学

## 保 育 科

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	240	240	240	240	240
入学定員 (人)	240	240	240	240	240

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

#### (1) 保育者離れ、短大離れに対する学生募集対応策の検討

コロナ禍において、志望校を早期に決める傾向がみられる。そのため、年内の指定校推薦や推薦入試において可能な限り定員確保を達成できるよう保育科の入試広報活動を展開していく。具体的には、各 OC で特徴をつけたテーマや内容を展開すること。SNS や学科ニュース、高校訪問などを積極的に取り入れて、名短保育科の魅力を伝える広報活動をする。新たにオンライン OC や 2022 年度に実施したナイトキャンパスツアー（夜の OC）を実施する。

#### (2) 【名短保育】ブランドの維持と新たな学科の再編の検討

保育離れが著しい中、「保育を学ぶなら名短」と呼ばれるように、愛知県下に優秀な保育者を輩出してきた歴史と誇りを今一度アピールできるように、新たな魅力を発信する。そのためには、建学の精神に基づき、保育科として、「多様性」と「国際性」を特色とした新たな魅力を創出する。最終的には、新しい学科の再編と学科の適正数を見直す。

### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

(1) 高校生に魅力のある新しいカリキュラムを検討し、さらに多様な学生のニーズに合わせたコース制の導入、また新たな資格・免許の取得が可能か検討し、可能な限り早期に実施する。男女共学化に伴い、男子学生にも魅力のある教育・進路を検討する。

(2) 附属幼稚園との教育・研究面での連携を深め、保育の実践力の育成の方策を検討し、実施する。

(3) 保育科を基盤とした通信教育課程の創設を検討し、実施へ向けて開設室を設置する。

(4) 保育の専門性向上をめざして、多様性の特色として特別支援に関する本学独自の資格（履修証明）を発行する。また、国際性の特色として各種の海外研修の復活と新たに韓国研修を取り入れる。

### 3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）

(1) 公務員試験における小論文、面接、集団討論の指導をさらに徹底する。また、課題となっている専門講座の実施方法について検討を継続する。各自治体の試験日や試験科目の変更をいち早く取り込むための情報収集を徹底し、学生への発信を速やかに行う。

(2) 学生の質が多様化する中、悩みを抱えて入学する学生のフォローや学習意欲の低い学生への対応をゼミ担当教員のみでなく、学科全体で支援する体制を整える。ま

た、学習意欲の高い学生は、さらに自分のスキルを磨くことができるような多様な指導体制を整える。

#### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- (1) 保育者不足解消に貢献できるように、学生が地元で長く働くことができるように、多くの自治体と、実習の意見交換会等を定期的を開催しながらの関係を構築して連携していく。
- (2) 保育科独自の地域連携を積極的に進めるために、子ども芸術祭など地域の子ども達と関わることを実施していく。また、企業との連携も検討する。
- (3) 豊明市・豊田市・安城市との地域連携協定を活かして、地域の大学として保育分野で貢献していく。

### 専攻科保育専攻

#### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
入学者 目標値 (人)	20	20	40	40	40
入学定員 (人)	20	20	40	40	40

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

- (1) 四大・専門学校との差別化(短期大学2年+専攻科2年での学びのメリット発信)  
短期大学の2年間で幼稚園教諭二種免許・保育士資格を取得していることを強調し、専攻科では保育者として働きながら学ぶことが可能なことについて、高校訪問、メディア等で広報する。また、専攻科の仕組みについて県内外の高校、養成校、保育現場に広報、周知することが重要であり、現役高校生のみならず、リカレント教育として発信し、多様な学び方が可能なことを強調していく。
- (2) ワーキングスタディ制度についてアピールする。  
地域連携協定を締結している豊明市・豊田市・安城市以外の公立、私立の幼稚園・保育園、発達センター、様々な児童施設等でワーキングスタディできることを広報し、働きながら幼稚園教諭一種免許に更新できることを発信する。
- (3) 留学タイプを停止し、その代用として桜花学園大学への編入を実施する。さらに、新たな魅力として短期の留学プログラムを創設する。

#### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

- (1) 保育科のカリキュラムからの学びの連続性を考慮したカリキュラムの編成について検討し、従来の国内タイプのカリキュラムを見直し、学生の多様なニーズに合わせた専攻科での豊かな学びにつなげるようにする。
- (2) 社会人・他短大からの入学を積極的に受け入れることができるよう、多様な学び方や魅力ある授業の展開を考える。
- (3) 研究論文作成の基礎を確実に修得できるように、講座制・副査のあり方を再検討する。また、教員の専門性、多様性を活かして、学生の多様な学びにつなげていく。

3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）
  - (1) ワーキングスタディなど多様な学び方や魅力ある授業を展開し、その学びが学生それぞれの多様な進路・就職につながるようにする。
  - (2) ワーキングスタディを採用する自治体・実施施設等を拡大し、安定した関係性を構築できるように提携を交わす仕組みを構築する。
  - (3) 保育の免許・資格を有する専攻科生の特質を生かし、保育科の学生と交流の機会をつくるなどして、相互の学びが深まるようにする。また、さまざまな場所で協働連携できるような活動を展開し、学生が自信と誇りをもって就職できるようにする。
  
4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）
  - (1) 保育者不足解消に貢献できるように、学生が地元で長く働くことができるように、多くの自治体等と、ワーキングスタディ等を通して関係を構築して連携していく。
  - (2) 豊明市・豊田市・安城市との地域連携協定等を活かして、地域の大学として保育・子育て支援の分野で貢献していく。

## 英語コミュニケーション学科

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	80	80	80	80	80
入学定員 (人)	80	80	80	80	80

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

- (1) 海外英語研修やその他海外での実習プログラムの魅力と拡大した参加確約型の入試をアピールし、入学者増を図る。
  - (2) 四大への編入が可能であることを短大の魅力の一つとして広報を強化する。
  - (3) パンフレット、ウェブサイト、SNSなどの情報発信ツールのコンテンツや運用方法が効果的なものになるよう常に見直し、改善を図る。
- 
2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出
    - (1) 「語学留学実習」（4ヶ月間プログラム）や「海外英語実習」（4週間プログラム）などの海外英語研修やその他海外での実習プログラムをより一層充実させ、より高校生をひきつけるプログラムの開発と改善に取り組んでいく。
    - (2) 学生にとってより魅力のある教育課程となるよう教育課程全般を継続的に点検し見直ししていく。
  
  3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）
    - (1) 入学後の早い時期から SPI への対応能力を向上させるような取り組みを行うなど、長期的に就活に向けた具体的な準備を行う。
    - (2) 学生課やライフデザイン担当教員と連携して、効果的な就職支援、進路支援に努める

とともに、全専任教員による学生へのきめ細かい指導を継続する。

#### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- (1) 学科の教育目標に対応した当学科の授業科目において、学生が十分な学修成果を獲得するよう常に点検と改善を行う。
- (2) 少子高齢化社会における、地域の一員としての学生の重要性に鑑み、特に地域連携と親和性の高い観光関係や多文化共生関係の授業科目やゼミにおいて、フィールドワークやボランティア活動等、地域とのアクティブな関わりにより、地域への理解を深めると同時に地域に貢献することを目指す。

### 専攻科英語専攻

#### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	7	7	7	7	7
入学定員 (人)	7	7	7	7	7

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

- (1) 英語コミュニケーション学科への入学を検討する高校生向けに、短大卒業後の進路の選択肢の一つとして専攻科の存在を周知し、その魅力をアピールしていく。
- (2) 英語コミュニケーション学科在校生に対し、専攻科の魅力をアピールする場を増やし、アピール内容、アピールの仕方を工夫する。

#### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

学生にとってより魅力のある教育課程となるよう教育課程全般を継続的に点検し見直していく。

#### 3. 満足度の向上(就職支援、進路支援、学生生活等)

学生数の少なさにより教員のきめ細かい対応が可能となる利点を生かして指導を行っていく。

#### 4. 社会からの要請への対応(地域連携、グローバル化等)

学内、学外の諸活動へより積極的に参加するよう促すと共に、より参加しやすい環境作りに努めていく。

## 現代教養学科

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	80	80	80	80	80
入学定員 (人)	80	80	80	80	80

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

- (1) 名古屋短期大学3学科共通の「短大キャンペーン」を実施し、専門学校と比較した短大進学の特長を高校生およびその保護者、高校教員にアピールする。
- (2) 新カリキュラムによって時代と社会の最新ニーズに応じた科目群を提供することで「より幅広い学び」の魅力を生徒にアピールする。
- (3) 女子中高生がもっとも興味関心を持っている分野の一つは「韓国」であることから、韓国の協定校での短期研修（2～3週間）や長期留学の魅力を生徒にアピールし、3年次編入の実績を出すことで、入学希望者の増加につなげる。

### 2. 教育・研究活動における新たな魅力の創出

- (1) 教育活動のデジタル化をさらに進め、テキストや資料、動画等を学内外でシームレスに閲覧・共有する学習スタイルを定着させる。
- (2) 社会全体がアフターコロナ時代へシフトしているため、自粛（中止・延期）してきた学科イベント（宿泊型の秋のセミナー等）を社会状況に応じて修正しながら復活させ、現代教養学科の特長であった〈アクティブで楽しい学び〉の魅力を生徒に創出する。
- (3) AIやデータサイエンス等の技術に関する基礎知識、LGBTや選択的夫婦別姓等の社会問題に対する議論など、現代を生き抜く社会人として必要となる最新の教養が身につくような授業内容、ゼミ内容を提供する。

### 3. 満足度の向上（就職支援、進路支援、学生生活等）

- (1) 進路希望の多様化という昨今の状況に合わせ、ゼミ担当教員の面談を密にして学生の多様な要望に応える。
- (2) アフターコロナ時代に応じたサークル・委員会活動を検討・提案し、学外研修の機会も増やすなど、コロナ禍で失われかけていた「楽しい学生生活」の充実を図る。
- (3) 入学者の減少により少人数化するゼミ活動の内容を見直し、少人数ならではのコミュニケーションやアクティブ・ラーニングの展開によって、満足度のさらなる向上を図る。

### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- (1) キャンパス周辺の住民が聴講生として授業に参加し学べる制度を広報するとともに、学生と社会人聴講生との共同作業による新たな学びのスタイルを生徒に創出する。

- (2) 学科イベントやゼミ活動などの機会を通して、有松の伝統文化を継承するための支援活動を継続する。
- (3) 新カリキュラムが提供する LGBT や多文化共生を扱う授業を通して、多様な価値観に対する理解を持つ学生を養成・輩出する。

## 桜花学園高等学校

### 1. 生徒募集における広報強化策

[5年間の数値目標]

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
入学者 目標値 (人)	400	400	400	400	400
入学定員 (人)	500	500	500	500	500

※目標値は、それぞれの該当年度4月の入学者数

[対応策]

- ・バスケットボール部や合唱部の活躍が原動力となって他の部活動への活性化に繋げ、生徒の学校生活の満足度・達成感を高める。
- ・学習においても皆で頑張り合う女子校としての特色を活かし、個々の学力向上に繋げ、女子校の良さを生徒自身が実感し、本校を誇れる意識作りをする。
- ・オープンスクール、学校説明会の来校者を増やすために部活動体験や各コース説明をより充実させる。
- ・Twitter 投稿ルーム、YouTube、Instagram を活用して生徒たちの学校生活を随時情報配信する。

### 2. 教育活動における新たな魅力の創出

- ・整った ICT 設備を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- ・全生徒が持つ iPad を使って、探求・統計・発表・発信など幅広く学習に活用する。教科担当者（専任・非常勤）も iPad を所持し、積極的に活用する。
- ・国際キャリアコースの取り組みと 3 カ年の教育内容を中学校や中学生、その保護者に発信する。
- ・保育コースの2年間で育てたい保育士像を明確に提示し、「桜花一日保育園」を保育コースの魅力として位置付ける。
- ・特進コースの授業内容を充実させる。1年次は3クラスで編成し、2年次より文系2クラス、理系1クラスの3クラス編成を実現し、進学実績をよりよくする。
- ・学校行事を見直す。（新入生オリエンテーション、桜花祭、修学旅行、学習合宿、留学等）

### 3. 満足度の向上（進路支援、学生生活等）

- ・隔週土曜日に行っていた授業を進学補習・学力補充講座・各種検定講座・教養講座（外部講師も含み、保護者の参加有り）に変え、生徒自身が自由に選び、自主的・積極的に参加できるようにする。

- ・平日の授業後進学補習をなくしたことにより、教員との面談や生徒からの質問、自学自習、部活動などの時間確保ができる。
- ・保育コース、国際キャリアコースのカリキュラムを見直し、午後の時間を実習準備や探求活動に変える。
- ・桜花祭においてスマホの使用を緩和する。
- ・校則を見直し、強制ではなく生徒の自主性を重んじた新たな校則に改訂する。
- ・保護者対象の講演会等を開催する。

#### 4. 社会からの要請への対応（地域連携、グローバル化等）

- ・国際キャリアコースの教育活動を核として学校全体の英語教育の充実をはかる。
- ・SDGs（持続可能な開発 17 の目標）の活動を通じて、社会に貢献できる人材を作る。（AICHI EXPO に出店）
- ・卒業生による講演などでキャリア教育を充実する。
- ・ボランティア活動を推進する（学校周辺、荒畑駅、御器所駅での清掃活動）
- ・昭和区役所と地域発展に係わる連携協力を行う。（昭和区民まつり・八事の森祭り・昭和区まちなかコンサート）
- ・昭和警察署から依頼のあった防犯、交通安全活動に協力する。（200 日間自転車無事故、無違反ラリー・「特殊詐欺」被害防止広報活動）

## 名古屋短期大学付属幼稚園

### 1. 学生・生徒・園児募集における広報強化策

[2022 年度園児数と 2023～27 年度目標値・対応策]

	満 3	年少	年中	年長	合計(充足率)	クラス数	定員
2022 年度実績数	15	84	82	77	258(82%)	10	314
2023 年度目標数	48	71	85	82	286(91%)	11	314
2024 年度目標数	48	75	72	86	281(89%)	11	314
2025 年度目標数	48	75	76	73	272(87%)	11	314
2026 年度目標数	48	75	76	77	276(88%)	11	314
2027 年度目標数	48	75	76	77	276(88%)	11	314

●利用者目線での幼稚園の魅力を確認してブランディングを図り、それをあらゆる機会を利用して「発信」し、安定的な 11 クラス体制を構築する。

- (1) 満 3 歳児保育のニーズに応じて、2023 年度より独立 2 クラスで実施する。
- (2) 保護者の就労を保障できるように預かり保育の時間と日数を増やし、長期休業中も含めて 8 時～18 時の 10 時間の預かり時間の保障を目指す。
- (3) できるだけ多くの地域の未就園の家庭を対象とした様々な内容の子育て支援に取り組む中で園の魅力を発信する。（2023 年度）

① 1 歳児とその保護者対象「さくらもち」月 2 回実施

- ② 2歳児とその保護者対象「さくらっこくらぶ」月1～2回 20組×4クラス
- ③ 里山自然体験型子育て支援「はぴちる」2か月に1回 20組
- ④ 園庭開放の充実 園庭開放時のイベントの実施

## 2. 教育活動における新たな魅力の創出

- (1) 高い教育水準に加えて、充実した課内(体育・リトミック・英語)・課外プログラム(水泳・サッカー・体操・英語・学研)をさらに積極的に展開する。
- (2) オーストラリア・カナダの保育資格をもつ教員(3名)を活用して、英語で関わる取り組み(Enjoy English Time)を実施して、子どもと保護者のニーズに応える。
- (3) 大学キャンパス内の里山・果樹園・森・畑を生かした「自然」「健康」「食育」の取り組みを展開する。

## 3. 満足度の向上(保護者、園児への対応等)

- (1) 「里山での収穫体験」「里山散歩」「森の探検」「保育室炊飯」など園児・保護者にとって満足度の高い活動を積極的に展開する。
- (2) 園管理システムを活用してDXを推進し、保護者の利便性の大幅な向上を図る。

## 4. 社会からの要請への対応(地域連携、グローバル化等)

- (1) 高校生の幼稚園ボランティア・中学生の職場体験の受入れを拡大する。
- (2) 海外の保育資格をもつ教員を活用して幼児教育のグローバル化を図る。

### 3、財務の中長期計画

#### 1. 長期目標

経常収支差額の黒字を維持し、安定的で持続可能な教育研究活動の為の基盤を構築する。

#### 2. 中期計画

2014年度に帰属収支差額（現行制度の基本金組入前当年度収支差額に相当）が収入超過に一度転じた後、翌2015年度に支出超過に戻って以降、未だ黒字回復に至っていない。最新の情勢に鑑み中期計画（2023～2027年度）を以下の通り策定する。

#### 2-1. 計画の概要

##### （1）学生・生徒の確保

- ①男女共学化実施による募集対象マーケットの拡大。
- ②定員未充足の学部・学科における学部学科の改組推進。

在籍数（人）	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
桜花学園大学	829	777	785	828	878	945
名古屋短期大学	689	674	624	669	694	709
桜花学園高校	977	946	947	878	900	900
名短付属幼稚園	243	238	260	265	280	285
計	2,738	2,635	2,616	2,640	2,752	2,839

※5月1日基準で、大学院、専攻科含む。2022は確定値、2023以降は予測値

##### （2）安定的な収入の確保

- ①学生・生徒数の維持による学納金の収入の底上げ。
- ②大学・短大部門の特別補助確保。（改革総合支援事業の採択を目指す。）
- ③学園創立120周年記念寄付金の積極募集。

##### （3）資産運用

- ①元本保証債券を前提とした合理的リスク管理と運用効率向上を指向。
- ②世界的なインフレ転換に起因する、利上げ局面に対応した高金利ポートフォリオへの債券の入替。

##### （4）施設設備

- ①学園創立120周年事業を軸とした施設設備改善計画を推進。大学・短大キャンパスで竣工した8号館等の有効活用を図る。
- ②定期的な維持管理は計画通りに実施し、バリアフリー化を推進。
- ③大規模な設備更新においては、必ず補助金（特別補助等）の対応を検討。
- ④行政主導の「教育の情報化」に沿ったICT活用の環境整備については、費用対効果を見極めて適時適切に対応を検討。

##### （5）支出関連

- ①人件費比率の改善を行うため抑制的運用を維持。  
兼務教職員の削減方針は堅持。ただし改組転換による影響を最小限にとどめる。
- ②「事前決裁」の取組を遵守し、歳出を抑える。

## 2-2、財務予測

2021年度決算値を元に算出した事業活動収支決算予測額 (単位百万円)

決算年度 事業収入	2021決 算 (R03)	2022予 測 (R04)	2023予 測 (R05)	2024予 測 (R06)	2025予 測 (R07)	2026予 測 (R08)	2027予 測 (R09)
学納金	2,328	2,236	2,221	2,187	2,261	2,368	2,468
補助金	798	740	715	715	695	720	731
付随事業	129	120	117	117	116	119	121
資産運用利息	38	78	58	58	58	58	58
その他収入	300	300	300	300	300	300	300
<b>事業収入合計</b>	<b>3,593</b>	<b>3,474</b>	<b>3,411</b>	<b>3,377</b>	<b>3,430</b>	<b>3,565</b>	<b>3,678</b>
事業支出	2021決 算	2022予 測	2023予 測	2024予 測	2025予 測	2026予 測	2027予 測
人件費(退職金除く)	2,372	2,372	2,372	2,372	2,372	2,372	2,372
教育研究経費	707	637	633	640	668	690	696
管理経費	266	280	280	280	280	280	280
減価償却費	317	317	317	317	317	275	275
その他支出	60	60	60	60	2,758	60	60
<b>事業支出合計</b>	<b>3,722</b>	<b>3,666</b>	<b>3,662</b>	<b>3,669</b>	<b>6,395</b>	<b>3,677</b>	<b>3,683</b>
基本金組入前当年度収支差額	▲241	▲192	▲251	▲292	▲2,965	▲112	▲5
基本金組入額計	▲599	▲300	▲50	▲50	6,325	▲50	▲50
翌年度繰越収支差額	▲8,209	▲8,701	▲9,002	▲9,344	▲5,984	▲6,146	▲6,201

120周年 改組転換 豊田C処分

私学事業団実施の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」の算出で使用されている

手法を用いて作成。金額基準は2021年度決算数値を使用。学生数減少により支出経費が多くなっている。

なお、人件費は2021年度決算値から退職金を除いたものをベースに算出している。そのため、実際の2021年度決算書の事業収入計と事業収入支出計の値とは異なる数値となる。

基本金組入前当年度収支差額においては2021年度決算値を用いて、シミュレーションによる増減を加味して積算している。

学納金算出においては2021年度の学生数(確定値)を基準に使用しているが、そのほかは学生募集の流れを元に2022年の入試の受験者動向を考慮に入れながら算出している。

基本金組入額計は組入額と取崩額を合算して表示している。(組み入れ額はマイナス表示)